

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の個性を伸ばし、豊かな人間性を育み、志を持って不確実な時代を切り拓く力を育てる学校

～ 「茨西 PRIDE」のもと、茨西につながるすべての人が「TEAM 茨西」として、生徒それぞれの「志をカタチに」する ～

- 【生徒に育みたい力】 ◇ 確かな学力を基に、高い志を持ち、グローバル社会を生きる力
◇ 生徒が自己肯定感を持ち、社会人として自律できる力
◇ 自分の周りの人、地域、世界とつながる力
- 【教職員に求める力】 ◇ 同僚性を高めチームとして互いに協調し、真摯に生徒に向き合う力



2 中期的目標

1. “確かな学力”の育成

(1) 生徒の学習支援の強化

- ア 授業規律の一層の徹底
イ 学習支援体制の構築と電子黒板の有効利用
ウ 生徒一人一台の学習端末の効果的な活用

(2) グローバル人材の育成

- ア 英語四技能習得にむけた教科の枠を超えた教育活動の推進

(3) 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」を育むための授業力向上

- ア 授業評価のPDCA サイクルによる授業改善と教員相互が切磋琢磨できる校内環境づくり
イ 主体的・対話的で深い学び及び能動的授業の推進

※ 学校教育自己診断（保護者版）、授業のわかりやすさに係る肯定回答率、令和7年度70%以上をめざす。(R2:61%・R3:64%・R4:56%)

※ 学校教育自己診断（教職員版）、「主体的・対話的で深い学び」に取り組む教職員の割合、令和7年度95%以上をめざす。

(「生徒の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法を行っている」R2:79%・R3:89%・R4:94%)

2. 志高く“社会を切り拓く力”の育成 ▷「志をカタチに」

(1) 生徒の将来を見据えたキャリアサポート

- ア 全方位の基礎学力調査による、早期の生徒・保護者の進路意識の醸成
イ 卒業生による分野別説明会等の実施によるキャリア意識の涵養

※ 第3学年4月の進路希望調査（4年制大学・短期大学進学者）の実現率、令和7年度90%以上を維持する。(R2:65%・R3:80%・R4:90%)

3. 自己肯定感を持ち、社会人として“自律する力”を育む ▷「茨西 PRIDE」の涵養

(1) 自律を促す教育活動の展開

- ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上

(2) 自己肯定感を育む「安全安心な学校づくり」

- ア 人権道德教育委員会及を核として様々な人権課題に取り組み豊かな人権感覚を養うと共に、道德教育の推進を図る。
イ 教育相談委員会を核とした教育相談活動及び支援教育活動の活性化
ウ 交通安全教育や防災・防犯教育を通じた危機管理能力の向上と共助に係わる意識の涵養

※ 遅刻総数、令和7年度2,200人以下をめざす。(R2:2,310人・R3:2,372人・R4:3,118人)

※ 生徒・保護者向け学校教育自己診断「命の大切さ・豊かな心・人権感覚の醸成」に係る質問の肯定回答率、令和7年度90%以上をめざす。

(生徒・保護者の平均 R2:79%・R3:83%・R4:85%)

4. 自分の周りの人、地域、世界と“つながる力”の育成 ▷「TEAM 茨西」の形成

(1) HR活動・生徒会活動・部活動や国際交流行事等を通して「つながる力」を育てる

- ア HR活動・生徒会活動及び部活動の活性化
イ グローバル社会を生きる力を育む国際交流事業等の維持及び推進

(2) 中高連携の推進と地域連携等の強化

- ア 中高連絡会・地域交流協議会等により地域連携を強化し、地域のボランティア活動を通じ社会貢献を推進する。
イ 卒業生・保護者・地域の教育に係る人材等を発掘し協力体制を構築する。

(3) 家庭との連携及びPTA活動の活性化

- ア 家庭連絡や意思疎通をきめ細かく行い、学校と家庭で連携した教育を推進する。
イ PTA活動の一層の活性化

※ 生徒の行事に係る学校教育自己診断の肯定回答率、令和7年度90%以上をめざす。(R2:82%・R3:82%・R4:88%)

※ 部活動への1年次当初の加入率、令和7年度75%以上をめざす。(R2:67%・R3:71%・R4:70%)

※ 保護者への連絡及び意思疎通の項目の肯定回答率、95%以上をめざす。(R2:95%・R3:95%・R4:91%)

5. 教職員の“生徒に向き合う力”の強化

(1) 教職員がチームで生徒と向き合う

- ア 教職員の教育力を伸ばすための組織的な計画の策定による職員研修等の実施
イ 教職員の働き方改革を実現し、生徒と向き合うゆとりを確保する

※ 教職員向け学校教育自己診断の全ての項目について肯定回答率、令和7年度90%以上をめざす。(R2:1/9項目・R3:7/9項目、R4:6/10項目)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>◆生徒アンケート</p> <p>・肯定的回答の割合が2項目は増加、11項目で減少した。</p> <p>【結果】</p>	<p>◆第1回 (5/31)</p> <p>・シェイクアウト訓練（自分の身を守る訓練）を取り入れて欲しい。 ⇒次年度の訓練で加えることを検討したい。</p>

① 学校に行くのが楽しい	81% ⇒ 83%	↗
② まじめな態度で授業を受けている	92% ⇒ 91%	↘
③ 学校は生徒に配布している Chromebook を効果的に活用している	86% ⇒ 91%	↗
④ 他の先生が授業見学にくることがある	69% ⇒ 62%	↘
⑤ 学校生活についての先生の指導は納得できる	69% ⇒ 68%	↘
⑥ 茨木西高校は進路についての情報を知らせてくれる	85% ⇒ 83%	↘
⑦ 将来の進路や生き方について考える機会がある	86% ⇒ 85%	↘
⑧ いじめについて私たちが困っていると真剣に対応してくれる	86% ⇒ 84%	↘
⑨ 悩みなどがあるときに相談したいと思う先生がいる	63% ⇒ 53%	↘
⑩ 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある	92% ⇒ 82%	↘
⑪ 「体育祭」は、楽しく行えるように工夫されている	87% ⇒ 84%	↘
⑫ 「文化祭」は、楽しく行えるように工夫されている	87% ⇒ 85%	↘
⑬ 「修学旅行」は楽しく行えるよう工夫されている	89% ⇒ 86%	↘

【解決された課題】

・リーディング GIGA ハイスクール事業の研究校として、1人1台端末や電子黒板の効果的な活用について校内研修を実施したり、日常的に他の教員の授業を見学したりする機会が増えた結果、1人1台端末の効果的な活用に繋がったと考えられる(③)

【明らかになった課題】

・⑨・⑩について前年度比 10 ポイントもダウンしている。教員が生徒の気持ちに十分に寄り添えていないと考えられる。

【課題解決策】

・1人1台端末や ICT の効果的な活用、分掌業務や学校行事の見直しを図り、教員の多忙感を解消する。
 ・生徒情報の速やかな共有、SC との一層の連携を図る。
 ・次年度は SSW の配置を要請し、専門的な助言に基づく支援体制を構築する。
 ・「総合的な探究の時間」や人権学習等で、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を増やす。

◆保護者アンケート

・アンケート回収率 90% (R4:71%R3:77%、R2:83%)。
 ・肯定的回答の割合が7項目は増加、2項目は維持、1項目で減少した。

【結果】

① 子どもは学校に行くのを楽しみにしている	76% ⇒ 77%	↗
② 子どもは、授業がわかりやすいと言っている	56% ⇒ 60%	↗
③ 茨木西高校の生徒指導の方針に共感できる	75% ⇒ 77%	↗
④ 茨木西高校は、将来の進路実現に向けた適切な指導をしている	77% ⇒ 77%	→
⑤ 茨木西高校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる	76% ⇒ 77%	↗
⑥ 茨木西高校は、豊かな心や人権感覚を持ち、自分の生き方を考える生徒を育てようとしている	78% ⇒ 80%	↗
⑦ 茨木西高校は、色々な手段(携帯メールなど)で家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている	91% ⇒ 91%	→
⑧ 授業見学や懇談会、進路説明会などの活動に参加したことがある	70% ⇒ 66%	↘
⑨ 体育祭や文化祭などの学校行事に参加したことがある	46% ⇒ 59%	↗
⑩ 学校1人1台端末を効果的に活用している	82% ⇒ 88%	↗

【解決された課題】

・保護者用メール配信システムの登録を年度当初に丁寧にはたらきかけ、ほぼ100%の家庭が登録している。こまめな配信を続けたことにより、学校・家庭間の連携が強化され、全体として肯定的な意見が増加したと考えられる。

【明らかになった課題】

・授業見学や懇談会、進路説明会等に参加したことがある保護者の割合が減少している(⑧)。

【課題解決策】

・保護者メールで授業見学等への積極的な参加を呼びかける。
 ・オンライン授業見学の実施を検討する。

◆教職員アンケート

・アンケート回収率 100% (R5:100%、R4:100%、R3:100%)。
 ・肯定的回答の割合が1項目は増加、1項目は維持、8項目で減少した。

【結果】

① 学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている	93% ⇒ 85%	↘
② 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている	85% ⇒ 80%	↘
③ この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒(生活)指導を行っている	93% ⇒ 85%	↘
④ 生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている	100% ⇒ 87%	↘
⑤ いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている	96% ⇒ 91%	↘
⑥ 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる	91% ⇒ 89%	↘
⑦ 学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている	89% ⇒ 89%	→
⑧ 教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている	96% ⇒ 98%	↗
⑨ 生徒の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法を行っている	94% ⇒ 89%	↘
⑩ 学校は生徒に配布している Chromebook を効果的に活用している	100% ⇒ 95%	↘

【解決された課題】

・保護者用メール配信システムや SNS を活用し、情報発信に努めているため、

・ICT 機器の活用について、ぜひがんばってほしい。
 ⇒電子黒板が新設されたので、授業等での効果的な活用に挑戦したい。また、各教科の取り組みを共有する機会を設けたい。

◆第2回(9/20)

○令和5年度学校経営計画について

・ICT 環境が整備されたが、生徒への効果について、今後報告してほしい。
 ・電子黒板の使用にあたり、教員にとっては準備等の負担があるのではないか。

○令和5年度「学校経営計画」進捗状況について

・保護者用メール配信システムの利用は進んでいるか？
 ⇒ほとんどの保護者が加入し、学校全体や学年の連絡はメール配信している。
 ・ICT の効果的な活用について、外部講師を招いた校内研修をぜひ進めるとよい。
 ⇒本校のニーズにあった講師を招いた校内研修を実施し、25人が出席。
 ・コロナ禍で中断していた姉妹校交流や海外修学旅行が再開できることは良い。
 ・自転車のヘルメット着用(大阪4%)が低い。生徒自らが着用を呼びかけている学校もある。高校生が着用すると、他への効果が大きいと思われる。

○令和6年度「使用教科用図書」の決定について

・選定の基準は？
 ⇒生徒の実態に合わせて選定。視覚的に分かりやすいものを選ぶ教科が多い。

◆第3回(2/19)

○学校教育自己診断について

・生徒⑨の質問項目について、10%ダウンしている点について、学校側でどのように分析しているのか。
 ⇒多忙感により、生徒と向き合う時間が十分に取れていないと考えている。

○令和5年度「学校経営計画」について

・LGH の進捗状況について知りたい。
 ⇒概ね予定どおりに進んでいる。
 ・外部模試について
 参加者数が昨年に比べて大幅に減少しているのはなぜか。
 ⇒現時点では3月に実施予定の模試の人数が含まれていないが、最終的には昨年並みの人数まで増える見込みである。
 ・部活動の加入率が下がっているため、上がるよう頑張してほしい。

○令和6年度「学校経営計画」(案)について

・講習参加人数の目標設定について、無理があるのではないか。
 ⇒多くの生徒に参加してもらえよう促していく。

<p>情報の周知についての肯定的意見が増加したと考えられる(⑧)。</p> <p>【明らかになった課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員同士のコミュニケーションや生徒へのきめ細かな指導が十分に行えていない(①・③)。 <p>【課題解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌・委員会再編や学校行事の見直しを図り、教員の多忙感を解消する。 	
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力	<p>(1) 生徒の学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底 ・学習支援体制の構築 ・外部模試の校内実施 ・自学自習の環境整備及び運用 <p>(2) 英語教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語運用能力の育成 <p>(3) 授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が切磋琢磨できる環境づくり ・「主体的・対話的で深い学び」の推進 ・ICTを活用した学びの深化 	<p>(1) 生徒の学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底による学力保障 ・長期休業中の講習会による学習支援 ・外部模試による客観的な自己分析 ・自習室及び質問コーナーの活用推進 <p>(2) 英語教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語四技能習得に向けた取組み <p>(3) 授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互授業見学の活性化による授業力の向上+ ・「主体的・対話的で深い学び」の研修や授業見学の実施 ・1人1台端末及び電子黒板を活用した授業展開 	<p>(1) 生徒の学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を守る生徒割合90%以上を維持[92%] ・長期休業中の講習会への参加人数のべ300名以上[300名] ・外部模試参加者数のべ300名以上[304名] ・自習室及び質問コーナーの利用数のべ900名[894名] <p>(2) 英語教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語スピーキング力測定ツールを全学年で年2回実施[2回] <p>(3) 授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)「他の先生が授業見学にくる」肯定回答率70%以上[69%] ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組む教職員の割合90%以上[84%] ・タブレットの授業活用率90%以上[86%]、電子黒板の授業活用率80%以上[新規]、電子黒板に係る校内研修を年3回以上実施[新規] 	<p>(1) 生徒の学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を守る生徒割合91%(○) ・長期休業中の講習会への参加者57名(△) ・外部模試参加者300名(○) ・職員室前の質問コーナーと自習室利用者と併せて889名(△) <p>(2) 英語教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語スピーキング力測定ツールを全学年、年2回実施(○) <p>(3) 授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)「他の先生が授業見学にくる」肯定回答率62%(△) ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組む教職員の割合89%(△) ・タブレットの授業活用率92%、電子黒板の授業活用率84%、外部講師を招いた研修を含め、校内研修を年3回実施(◎)
2 社会性の拓く力	<p>(1) キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の進路決定に対する早期の動機づけ ・希望する進路の実現 ・外部機関・人材との連携 	<p>(1) キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期の動機づけのため、保護者に進路スケジュール等の情報共有 ・進路実現に向けた様々な支援強化 ・外部人材等と連携した分野別進路説明会によるキャリア教育の実施 	<p>(1) キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(保護者)「適切な進路指導」肯定回答率80%以上[77%] ・3年生4月時点での進路希望の実現率90%以上を維持[90%] ・卒業生等による分野別進路説明会アンケート肯定回答率90%以上[95%] 	<p>(1) キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(保護者)「適切な進路指導」肯定回答率77%(△) ・進路相談や講習を行う等きめ細かな進路指導を遂行し、3年生4月時点での進路希望の実現率90%(○) ・卒業生等による分野別進路説明会を2月に実施、アンケート肯定回答率90%(○)
3 自律する力	<p>(1) 自律を促す教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 ・規範意識の向上 <p>(2) 安全安心な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの育成 ・いじめの防止 ・教育相談・支援教育の充実 ・交通安全指導の徹底 	<p>(1) 自律を促す教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻指導の徹底 ・生活指導方針を生徒及び保護者に周知 <p>(2) 安全安心な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を発信する際に必要な資質・能力の育成 ・いじめの早期発見や対処に関する教職員の理解の深化 ・様々な課題を抱える生徒に向けたSC等を活用した支援体制の構築 ・入学時等の交通安全指導及び保護者・地域・警察等と連携した定期的な通学安全指導の継続 	<p>(1) 自律を促す教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数3%減[31%増] ・「生指だより」を年5回配信。学校教育自己診断(保護者)「生徒指導の方針に共感」肯定回答率80%以上[76%] <p>(2) 安全安心な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ネットトラブルの対応に関する講演会」の肯定回答率95%以上を維持[98%] ・学校教育自己診断(生徒)「命の大切さ、社会のルール」に係るアンケートの肯定回答率90%以上[92%] ・学校教育自己診断(生徒)「いじめ・悩みの相談」項目の肯定回答率75%以上を維持[86%] ・登下校時の事故数10件以下[12件]保護者・地域・警察等と連携した通学安全指導を年5回継続 	<p>(1) 自律を促す教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数19%減(◎) ・「生指だより」を年5回配信。学校教育自己診断(保護者)「生徒指導の方針に共感」肯定回答率77%(△) <p>(2) 安全安心な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ネットトラブルの対応に関する講演会」の肯定回答率95%(○) ・学校教育自己診断(生徒)「命の大切さ、社会のルール」に係るアンケートの肯定回答率82%(△) ・学校教育自己診断(生徒)「いじめ・悩みの相談」項目の肯定回答率84%(○) ・登下校時の事故数17件(△) ・通学安全指導を年5回(○)
4 つながる力	<p>(1) HR活動・生徒会活動・部活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR活動の活性化 ・生徒会活動の活性化 ・部活動の充実 ・グローバル社会に対応できる人材の育成 <p>(2) 中学校、地域との連携の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高連携の強化 ・地域連携の強化 	<p>(1) HR活動・生徒会活動・部活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的なLHRの実施 ・生徒会行事の見直し及び新しい取組みの立案 ・部活動の指導・運営体制の構築 ・海外高校生とのオンライン交流 <p>(2) 小中及び地域との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元3中学校との連絡会や連携事業の実施 ・地域行事等への参加 	<p>(1) HR活動・生徒会・部活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学年のLHR計画を学年主任会議で企画・調整し、学校教育自己診断(教職員)「学校行事が魅力ある」の肯定回答率90%以上[89%] ・学校教育自己診断(生徒)の生徒会行事における満足度90%以上[87%] ・部活動加入率70%以上を維持[71%] ・海外高校生とのオンライン交流会の実施5回以上[4回] <p>(2) 小中及び地域との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元3中学校連絡会3回、出前授業5校実施[連絡会3回、出前授業5校] ・地域行事等へのボランティア参加生徒数50名以上[56名] 	<p>(1) HR活動・生徒会・部活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)「学校行事が魅力ある」の肯定回答率89%(△) ・学校教育自己診断(生徒)の生徒会行事における満足度84%(△) ・部活動加入率61%(△) ・オーストラリアの高校生が来校し3日間の交流を実施。オンライン交流も5回実施(○) <p>(2) 小中及び地域との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元3中学校連絡会3回、出前授業4校、フィールドワーク1校実施(○) ・地域行事等へのボランティア参加生徒97名(◎)

府立茨木西高等学校

	(3) 家庭との連携の強化 ・保護者との連携の強化	(3) 保護者との連携強化 ・メール配信等を通じた保護者へのきめ細やかな情報提供	(3) 保護者との連携強化 ・学校教育自己診断（保護者）「家庭連絡や意思疎通をきめ細かく」肯定回答率 95%以上を維持 [91%]	(3) 保護者との連携強化 ・学校教育自己診断（保護者）「家庭連絡や意思疎通をきめ細かく」肯定回答率 91% (△)
5 生徒に向き合う力	(1) チームで生徒と向き合う ・生徒指導の充実 ・支援教育体制の構築 ・管理職・ミドルリーダーの育成 ・教職員の働き方改革	(1) チームで生徒と向き合う ・生徒との信頼関係に基づく、教職員的一致協力した生徒指導 ・SC や関係機関と連携した支援体制の構築 ・初任期からミドルリーダー・次代の管理職までの系統的な育成 ・在校等時間管理及び健康管理の徹底、教職員の意識改革	(1) チームで生徒と向き合う ・学校教育自己診断（教職員）「カウンセリングマインドを取り入れた指導」肯定回答率 90%以上 [90%] ・学校教育自己診断（生徒）「いじめ対応」「悩み相談」肯定回答率 80%以上 [86%] ・管理職及び運営委員にミドルリーダーを3名登用 [4名] ・月 80 時間を年間3回以上超える教職員4名以下 [7名]	(1) チームで生徒と向き合う ・学校教育自己診断（教職員）「カウンセリングマインドを取り入れた指導」肯定回答率 85% (△) ・学校教育自己診断（生徒）「いじめ対応」「悩み相談」肯定回答率 69% (△) ・外部の研修等への参加を促し、リーダーの育成に努めた。次年度運営委員にミドルリーダー4名を登用 (○) ・月 80 時間を年間3回以上超える教職員7名 (△)